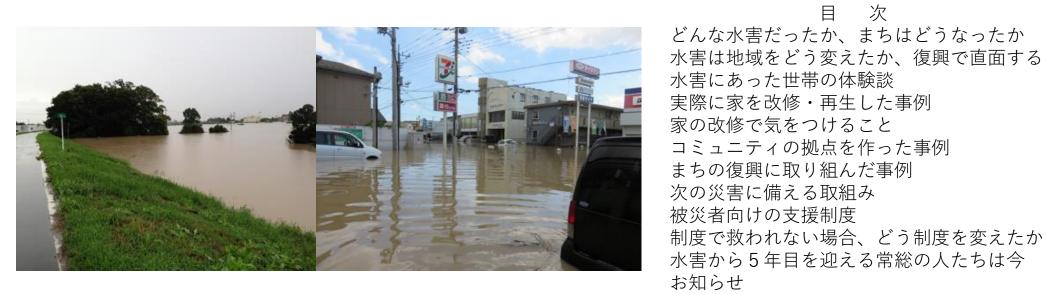
# 昨年の台風で被災された皆様へ 2015年の鬼怒川水害 を経験した常総市民の経験をお伝えします。



#### どんな水害だったか、まちはどうなったか 水害は地域をどう変えたか、復興で直面すること 4 水害にあった世帯の体験談 実際に家を改修・再生した事例 家の改修で気をつけること 12 コミュニティの拠点を作った事例 14 まちの復興に取り組んだ事例 16 次の災害に備える取組み 18

昨年の台風に伴う水害で被災された皆様は、今も何かと大変な日々をお過ごしのことと思います。私たち 常総市民は、4年半前の鬼怒川の洪水で市の3分の1が浸水被害に遭い、家もまちも暮らしも大きな影響 を受け、今も生活再建と地域の復興に取り組み続けています。私たちが水害から立ち上がろうと今日まで してきたことをお伝えしたいと思い、この冊子を作成しました。少しでも参考にしていただければ幸いです。

28

29

30

32

#### どのような水害だったか

#### 2015年9月10日の鬼怒川洪水

私たちが被災した「平成27年9月関東・東北豪雨」という災害は、鬼怒川の上流で連日大量の雨が降り、栃木県や茨城県で鬼怒川が氾濫した災害です。常総市では大規模な堤防決壊が起こり、市の3分の1の面積が浸水しました。浸水エリアはハザードマップに書かれていたのとほぼ同じでした。

# 

早朝、北部で堤防越水



13時 堤防決壊



夕方 新八軒堀川の水が地下 から溢れる

夜、南部市街地浸水



深夜 八軒堀川決壊 市の東部全体が浸水

#### その時、人々はどう行動したか

常総市は西に鬼怒川、東に小貝川が流れる平地で、水害のリスクが高い地域です。約70年前に鬼怒川、30年前に小貝川の水害に遭っています。にもかかわらず、市民も行政も日頃から十分な避難所の準備や避難訓練をしていませんでした。

10日の朝、常総市北部で鬼怒川の水が堤防を越え、その水で北部地区が水に浸かります。お昼に三坂地区東岸で堤防が決壊。大量の水が流れ出します。決壊地区付近には住宅が少なかったのですが、家を流され、命を落とされた方もいました。

常総市南部の人は、防災無線で「堤防が決壊した」と知らされても多くの人が動けませんでした。「水は来ないだろう」という思い込みと、訓練をしていなかったこと、防災無線での「川の西へ避難して」だけではどこに逃げて良いかわからず、時間はあったのに逃げ遅れました。近くの学校は水害時も2階以上なら避難できるはずでしたが、備えがなかったために実際には入れず、多くの人が家に留まっていました。夕方になり水路の水位上昇で逆流した水が雨水溝から溢れ、住宅街も市役所も水で囲まれました。そして夜になり、鬼怒川の水が市街地に到達し、深いとるで水位は2mを越えました。そして市役所も含めて停電しました。浸水は南部では3、4日続き、床上20~30cmの半壊でも1階の床と壁を張り替えなければならないような甚大な浸水被害を数千世帯が受けたのが常総水害です。

#### 3~4日間水に浸かったまち

電気と水が止まり、逃げ遅れた人はヘリやボートで脱出するしかなかった



車を高いところへ避難させたくても高い ところがなく、皆水没、廃車です。 逃げ遅れた人は、ヘリかボードで救助されました。荷物もほとんど持てず、バラバラに避難所に入ったために、避難所で自治がつくれず、とても苦労しました。まちに溜まった泥水は、ポンプで汲み上げてようやくなくなっていきました。



泥水が引くと、災害ごみが町に溢れました。準備不足で災害ごみの仮置き場が少なく、行って帰ると4時間かかると言われました。人々は、濡れた家具や畳を持って行き場に困りました。車もなく、やむなく近所の児童公園に災害ごみを運び込みました。分別もせず無秩序に投げ込んだため、膨大な分別の費用がかかり、公園の土も入れ替えることになり、半年以上使用禁止でした。

次に災害が起きたときには、絶対に公園をこのようにしたくない、そのための場を確保し、木、鉄、石膏ボード★、生ごみなどを分けて出すようにしよう、二度とヘリに乗らなくて済むよう早めの避難をしようと、私達は自主防災に本気で取り組んでいます。

★大工が来る前に、自分で塗れた床や壁を剥がすと廃材が出ます。常総水害では、石膏ボードと断熱材は産廃業者に有償で引き取ってもらうようにと言われました。かなり費用がかかるので、行政に要望し、一部補助が出るように変わりました。避難場所と災害ごみの備えは重要だと学びました。

水害でまちはどうなったか 人口流出、店舗の閉店、空き家と家にひきこもる人の増加

- 床上浸水被害が5,000世帯と多かったため、義援金の配分が1世帯25万円と薄くなりました。その金額では家を再建できない人、特に土地を借りていた人は、家を解体し常総市を去りました。人口流出と空き家・空き地の増大が、水害の後に起きました。
- 常総市は食品製造工場で働く日系ブラジル人など外国籍住民が多い市でした。水害後にアパートから日本人が住んでいた戸建ての空き家に移り住んだり、空き地に新築する外国籍住民が増加して、今では人口の9%近くになっています。その人たちのお陰で市の人口減が抑えられていますが、どう共生していくかも地域づくりの大きなテーマになっています。

#### 常総市基礎データ

2015年末 2017年末現在 2020年6月1日

●人口 64,462人 → 59,398人 → 62,887人

●外国籍

住民 3,922人(約6%)4,675人(7.8%) 5,515人(8.8%)







- 人口減少と合わせて起こったのが、店の廃業です。数百万円もする機材が一晩で使えなくなり、豆腐屋さんやクリーニング店がなくなり、いくつもあった製麺工場なども閉鎖されました。 (★) 人口が1割も減ったため、宴会を行えた料亭が2つなくなり、また先般の新型コロナウイルスの影響でさらに1つなくなり、学校の歓送迎会を行えるところがほとんどなくなってしまいました。
- 皆が集っていたファミリーレストランもなくなり、お茶飲みできるところもなくなりました。その結果、高齢者の外出の 機会が減って、家に閉じこもる人が増えていきました。
- 常総市は米づくりが盛んです。高価な耕作機械や収穫したばかりの米が水に浸かるなど甚大な被害が出ました。用水設備も壊れ、翌年の田植えが心配されましたが、なんとか通水が間に合いました。しかし水害を機に農家を辞め、他の人に田を貸す人も増えました。市民農園で野菜づくりをしていた人も辞めてしまうなど、仕事や生き甲斐を無くす人も多くいました。
- ★ 鬼怒川水害の際、被災した中小事業者への支援は1事業所50万円のみでした。アパートを何棟も持っていても50万円でしたから、人が 戻るかわからない状況では直せない大家さんのアパートが、そのまま空き家になりました。空き地に新たなアパートが建つと、古い アパートの再建は更に難しくなりました。古い借家で助け合って暮らしていた高齢者も帰る家がなくなり、バラバラになっていきました。

# 水害からの復興で直面すること まわりからは見えない課題は自分達で克服していくしかありません

災害からの「復旧」は、道路や施設を元通りに直すことなのでわかりやすい話です。災害からの「復興」とは何でしょう。人口流出、店の閉店、空き地や空き家の増加は見える課題です。新たな建物ができれば復興でしょうか。災害によって、今まであったもの、生活、人とのつながりが失われ、人々は以下のような課題に直面します。それらを個人の問題とすると人口流出が進み、空き家が増え、外出機会の減少や孤独は心身の健康にも影響します。これらの悩みに関して、地域で助け合って乗り越えていくことが、人のつながりや元気を取り戻すことにつながります。地域内で、自主防災やコミュニティ活動が活発になることで、「災害前よりも良い地域になったね」と思えた時が、復興した時ではないでしょうか。私たちは、そう思える日を目指して4年半活動しています。

# 思い当たる悩み、不安に〇をつけてみてください

家の改修・再建 に関する悩み	
生活する上での 悩み	

金配分では家の 改修費を賄えない

今までできてい

た買い物、外食

ができない

公的制度や義援

大工さんが見つ からない、改修 に時間がかかる 家を再建すべきか、 どうか、先が見えず 考えてしまう

> 住んでいた家と違 うところに避難して いて不便

家主が不在に

なった家の改修

をどうすれば良い

商売や農業、趣 店でお茶のみ話味をやめた。体が ができなくなった 衰え車を手放した

辛さが理解されない、忘れられた感 覚が心を重くする

# 悩み克服のヒント

他の人の経験談 (5~7頁) **DIYで改修費節約** (8~15頁)

買い物や外出の 支援、地域に戻り やすくする交流 (16頁)

人と話したり、繋が れる場をつくる (17頁,14·15頁)

前回の教訓を生か した家での備えと 地域の自主防災 (18~27頁)

心の悩み

老後の蓄えを改修 費に充て、この先 のことが不安 生き甲斐にして いたものがなく なり寂しい 友人が転居したり、人と話す機 会が減り寂しい

災害時に、いつ、どこに避難 すれば良いかわかならい

災害への不安

また水害に遭うかもしれないという不安

#### 水害で家を壊した世帯の体験談

常総水害で、家に住めなくなり、2年間つくば市の公営住宅に避難されていた2家族の体験談です。持ち家だった方は、持ち家を希望するものですが、2年間の避難生活を経てそれぞれの選択をされました。

#### 自宅の再建は諦め、市営住宅に移ったYさん

息子と二人暮らしだったYさんは、水害前に旦那さんが亡くなり、 息子も水害後に咳が出るようになり、仕事を休んだら職をなくして しまいました。災害時は高台の高校に早めに避難し車は無事でした が、戻ると家は泥水の酷い臭いでとても住めないと思ったそうです。 家の解体工事の費用は行政が負担してくれたそうです。無償提供さ れたつくばの公務員住宅から毎日元の職場に通う日々は大変だった そうです。息子さんは仕事がなくなってから家にこもるようになり ます。戸建ての生活から借家生活に変わった際は違和感があり、ま た戸建てに住みたい、再建したいと思っていたそうです。けれど自 分の年齢と無職の状態の息子ではローンは組めないと断念しました。 できるだけ家賃が安い市営住宅に入りたいと市に申請しても、高齢 世帯でも障がい者世帯でもないので、なかなか決まらず焦ったそう です。希望した場所ではなかったけれど市営住宅に入れることにな り、水害から2年後に常総に戻ってきました。

常総に戻ったことで職場も近くなり前よりよく眠れるようになり、息子も再び仕事をするようになったそうです。自分の年齢と息子との生活を考えると、借家でも良いかと思えるようになったと話すYさん。今思えば災害から2、3年は、夫、息子の仕事、我が家がなくなり、これからどうすればいいかと心が張りつめていたそうです。当分は親子二人で生きていく以上、それぞれにとって無理のないかたちを選択したが、そのことで気が楽になったとYさんは話しています。

#### 4年かかって自宅を再建したHさん

妻と息子と孫の4人暮らしだったHさんは浸水時は2階のベランダからボートに乗って避難したそうです。自宅は浸水で家が傾き全壊扱いで公費解体。Yさんと同様につくばの公営住宅に避難します。Hさんは避難先のつくばの公営住宅で、常総から避難した方のサロンの運営や送迎を毎回手伝ってくれました。企業を退職していましたが、グラウンドゴルフのグループでまとめ役をしたり、つくばから常総の高校に孫を送迎するなど忙しい生活を続けていました。

住宅は最初は中古の戸建てを考えたそうで、情報紙で調べ中古物件を見て歩いたそうです。二度と水害に遭いたくないと土地の高いところで探しましたがなかなか見つかりません。住んでいた場所の地価は水害後四分の一まで下がったそうです。ただその場は駅やスーパーに近く生活はしやすいところでした。土地を売るにしても値段は下がって、再建資金も十分にはなく、息子からも場所について意見がだされなかなか再建する場所が決まりません。被災者に無償提供されたつくばの住宅は災害から2年間しか住めなかったのですが、最後はもとの場所に新築することを決めたそうです。つくばを出る時にはまだ家はできておらず、近くに貸家を借りました。家ができても駐車場ができるまでまた時間がかかりました。そして漸く自宅が再建され戻ったそうです。建物の名義は息子さんにし、万が一再び浸水した時に備えて2階にもトイレをつけました。夫婦とお孫さんで寝泊まりし息子さんは食事とお風呂の時に隣の市から通う生活が再開しました。

二つの家族のお話から、住宅再建にはお金の問題だけなく、家族と どう暮らすかが大きく関わっているのだと思います。

#### 家を直し、新たな暮らしを始めた世帯の体験談

#### 大規模半壊から住宅を再建、そして近所の仲間が集まるサロン「木曜会」を開いた橋本町在住のNさん

#### 元の場所に暮らすことにした経緯

4年半前の水害で家が大規模半壊となったNさんは、「ここではなく高台に家を新しく建てたい」と考えていました。しかし、親戚の方からこの家を直してここに住んだほうが良いと言われ、娘さんからも実家がなくなるのは悲しいと言われ、リフォームすることにしました。移らないことにした理由はそれだけではありません。Nさんはご主人と二人暮らしでした。隣の市にある知人のマンションに避難をしていたころからご主人が認知症が発症し始め、やはり住み慣れたあの家に戻ること、家の中も以前と変わらないよう電気のスイッチまで同じところに付けて、これからも安心して暮らせることを考えました。そうして水害から約1年後にリフォームは完了しました。小さな家が1軒建つくらいの出費だったそうです。今でもできることなら高台に住みたい、今の家の2階にもキッチンやお風呂をつくることが希望なんですと、Nさんは話します。

#### 住み慣れた町に仲間が帰ってきて始めたこと

リフォームが始まった頃、家の庭に避難先から毎日通い様子を見ていると、隣の家に大工さんが入り、その隣にも業者さんが入り、みんながこの地に戻ってくると感じてうれしくなったそうです。もともとこの地区は、何かがあるとみんなが集まりバーベキューをしたり、花見をしたりと仲が良く、よく集まっていたのに水害で一時はバラバラになってしまいました。Nさんもご主人も人を家に招くことが好きだったこともあり、まだリフォームが完成していない家だけどみんな集まらないかと声をかけました。それがきっかけとなり、水害の翌年4月から定期的に集まり、おしゃべりをしたいということで自宅でサロンを始めました。いつ集まる?何時からにする?などをみんなで決めて毎月第2木曜日午後1時半から集まることにしました。これが「木曜会」の始まりです。

水害当時のことを夕方暗くなるまで話し、おしゃべりが終わることはないくらいずっとずっとおしゃべりは続いたとのこと。みんな同じ経験をしたこともあり、この地区の人だけでほかの地区の方はご遠慮いただいているとのこと。同じ地区に暮らしていた人だから歩いて来れるところだからというこだわりを持って、「こんな場所があって良かったね」、「止めないでね」との声を受けて続けておられます。(3月からはコロナの影響で休止中)

Nさんは、「まさかこんな水害が起きるとは思ってもなかった。昔からの地域の助け合いがあって、今があるんです。私は恩返しのつもりで、この地で過ごしています」と話されていました。

#### 木曜会のお知らせです! 各地からさくらの開花便りが届き、春本番となってきましたね。 皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか? 寒暖の差があって、私達高齢者には体調を整えるのが大変な時期でもあります。 本年度も、高齢福祉課のご指導・ご支援・協力をいただきながら、「14班木曜会」を 別紙日程で例年通り、月1回場所と時間は変更なく行います。 何かとご予定があると思いますが、都合のつく限りご参加下さい。 「都合によって2時半から参加」でも、「途中退席」でも大丈夫です。 遠慮・気兼ねは全く不要です。 1 4班の方だけの集まりですので、気兼ねなくおしゃべりしたり、笑ったり出来ます。 楽しい時間を確なじみの皆さんと共有して、笑いあり・おしゃべりありと、なりますよ うにと願っています。 講師の先生の内容も、「こんな話が聞きたい」という講話希望がありましたら、大歓迎 です。ご希望に合った先生の派遣を要請して、お聞きできるように頼みますので遠慮なく お知らせください。 ※現在予定している先生は、3名です。 1 足腰らくらく体操・・・・島田 孝先生=埼玉の病院で、リハビリの専門医として活 躍中の先生です。体操実技と講話です。 足腰を痛めない為の日常の予防予防とか、 痛みを抱えている方には、痛みが和らぐ方 法などを専門家に直接教えて頂けます。 長い経験と実績からわかりやすく、お話し してくれます. 2 元気波大学教授・・・・・奥野純子先生=日程はまだ未定です。(先生のスケジュール 調整中) 今回も講話の内容は、皆様のご希 望の内容をお聞きできる予定です。 毎年来で頂いている先生です。 話しやすい、とっても優しい先生です。 血圧のこと、薬のこと、栄養のこと、骨量 のこと。等々なんでも0 Kです。 3 高齢福祉課職員・・・・・専門職の職員=「例」介護保険・施設等々の勉強。 14班 中根

#### 家を直し、新たな暮らしを始めた世帯の体験談

#### 500世帯の3分の2が床上浸水した森下町で花を通じた活動を始めたSさん

橋本町の隣にある森下町は、50年前に鉄道の駅ができてから住宅が増えた地区です。地域にはスーパー、薬局、飲食店なども多く、広い児童公園もありました。水害後、公園は災害ごみで溢れ、薬局、レストラン、クリーニング店などが次々に廃業、多くの住民は1階が住めなくなり、2階暮らしか別のところに移りました。鉄道も復旧まで1ヶ月かかりました。当時の区長も市外に避難し、各班長もバラバラになり自治会の連絡網は使えなくなりました。そんな森下町をなんとか盛り上げようと思ったSさんは、自宅の改修も進めつつ残っていた自治会の役員の方たち、そしてコモンズと一緒に活動を始めます。公園の敷地内にある公民館は使えないので、まちのシンボルだった北水海道駅が活動場所になりました。そこで前から取り組んでいた花壇づくりの再開を呼びかけたのです。みな自宅の片づけが続いている時期でしたが、呼びかけに応じた住民が次々に集まり、泥と埃で灰色だった駅前に色が戻ってきました。その日は、水害から1ヶ月経った日で、NPOは足湯やマッサージのボランティアに声をかけました。このまちに多く暮らすブラジル人の方には肉を用意して、ブラジル風のバーベキュー「シュラスコ」を振舞ってもらいました。そんな時、1月ぶりに常総線の列車が駅に来ました。とても穏やかな気持ちになった1日でした。水害から数ヶ月間は被災地区の集会所は殆ど使えない状況でしたので、外部から支援に来た団体による炊き出しの多くは避難所で行われ、水害から数ヶ月間は被災地区の集会所は殆ど使えない状況でしたので、外部から支援に来た団体による炊き出しの多くは避難所で行われ、

在宅被災者には支援が届いていませんでした。駅前で活動していると生協が定期的に食料を提供してくれるようになり、色々なボランティアが街に来る機会が増えました。韓国のフルート演奏者とプロの歌手が慰問に来てくれることになり、Sさんたちは町にある市の施設を貸してほしいと交渉に行きました。コンサートに集まった方は皆涙し音楽によって心を癒されました。行政やメディア、外部からのボランティアも全壊世帯が多かった決壊現場の集落に目を向けていました。

Sさんや後任の区長さんたちが行動を起こしたことで、多くのボランティアが森下町に繰り返し来てくれるようになりました。森下町でコモンズが空き家改修に取り組みはじめると、Sさんは花壇づくりで新たにつながったお母さんに声をかけてボランティアの昼食を作ってくれました。県外から来た高校生や若い世代にSさんは災害の時の話をしました。空き家を改修したジュントスハウス(次頁参照)ができると、公民館で行っていたような活動も始めました。サツマイモを蒸して削いでほし芋をつくったり、リオデジャネイロ・オリンピックのときには、ブラジルの人も招き皆で応援しました。横浜市などから相次いで視察が来ると、被災した住民として経験を話す役も務めました。これからは地域に暮らす外国籍の住民とも一緒にまちを作っていく必要がある、東京から1時間で来られる被災地として多くの人に来てもらいたいとSさんはいつも前向きです。



#### 経費を削減して住宅を再生した事例1 ジュントスハウス

森こで院おく住せ遺「ま提しのは下のい中きなむん族直せ案た改が町家たにそっ人でのしんをが修万には方水のたがし方てか受工費円には方水のたがし方でか受工費円があ住が害後たいたか使」け務見のなるん入が亡めま。らいとま店積

部とる集始エンてでにどこしめDIXめめさテく寄のでとたいすり、まんィれ付万修でとたってでいるのでとたいまがすがあるででであるである。



水害から3か月閉めきっていたので、床板を剥がし土の乾燥をひと月続けました。床上60cmくらいでしたが壁紙を 剥がすと石膏ボードにはカビがあり異臭を放っていました。ボードを撤去し柱も全部アルコールで消毒しました。





室内乾燥の後、床や壁に断熱材を入れ板を貼りました。狭かったトイレは裏側の押入れを壊してスペースを拡大。 台所には中古の流し台をつけました。1階の和室はカーペットにしました。棚と机は手作りのものを設置しました。



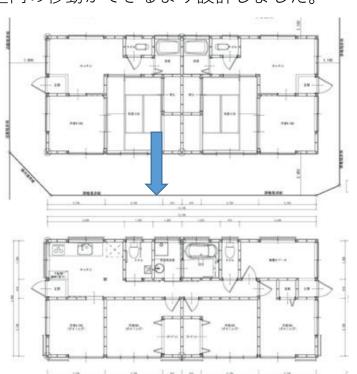


外壁のペンキ塗りは中高生に手伝ってもらいました。完成後は、NPOの事務所、地区の集会所、学習の場、障がい児 放課後等デイサービス、家がない人のシェルター、ゲストハウスと、いろいろな使い方をしています。

#### 経費を削減して住宅を再生した事例 2 Hアパート

森下町の戸建てアパートの1階も泥水に浸かったままの状態でした。大家さんから直して使ってほしいとの話があり、最初に 泥出しと石膏ボードや断熱材の除去を行いました。廃材の産廃処理費で30万円くらいかかりました。泥を落とした床板を貼 り戻し、消毒して一時期は倉庫として使用していましたが、3年近く空き家状態でした。2020年度に改修費の補助が見込める

ことになり、下図の改修図面を作成し2020年12月から3ヶ月間の工期で改修を実施しました。元々2世帯向けの住居の壁と柱をずらし、3室の居室と共用の台所、倉庫、大きめの風呂とトイレ、リビングをつくる改修です。車いすで室内の移動ができるよう設計しました。









改修作業の工程	誰が実施したか
床板上げと泥落とし、床下の泥とりと乾燥 壁紙、石膏ボード断熱材撤去、消毒	発災から3か月以内にボランティアで実施
床下の大引き、根太、枠回しの設置	大工が施工しつつ、DIYでも実施
床板の上と壁に断熱材設置	DIYで実施
部屋の仕切り変更に伴う筋違い増設	大工の助言を得ながらDIYで実施
床板、石膏ボード設置	DIYで実施
配線付け替え(2世帯を1世帯に)	配線とスイッチ、コンセントづくりは有資格者がDIY。 配電盤交換、200V電線引き込み、東電手続きは電気屋さん
上下水管敷設	水道工事屋さんに依頼
一つのトイレと風呂のスペースを拡張	大工の助言を得ながらDIYで実施
風呂スペース拡張に伴う柱付け替え	大工の助言を得ながらDIYで実施
ユニットバス設置のための基礎工事	業者の指示のもとブロックで土台づくりをDIYで実施
ユニットバスの搬入組み立て	専門業者に依頼
ドア枠やフローリングの設置	大工さんに依頼
台所のレンジフード、棚、流し台の設置	新古品をオークションで購入しDIYで設置 配管は業者
壁紙はり	DIYで途中まで行っていたが途中から内装業者に依頼

#### 経費を削減して住宅を再生した事例2 Hアパート

改修に係った費用	(金額:円)
大引、根太、間柱、垂木、 ベニアなど木材	400,000
石膏ボード <b>70</b> 枚	35,000
ドア7枚、ドア枠等の建具	260,000
トイレ2セット、洗面台	286,000
システムバス	350,000
台所のシンク、レンジ フードなど	75,000
断熱材 14袋	100,000
水道工事	150,000
電気工事	220,000
内装工事(壁紙張り)	190,000
部品消耗品	200,000
大工・DIYスタッフ日当	800,000
合 計	3,066,000



床板がない状態から改修スタート。床にあった段差をなくすため、大引き、根太、枠回しなど基礎に関する木工を大工さんに習いながら就労訓練中の人たちが行いました。壁の位置が変わるため、どの柱を残しどこに筋交を入れるか建築士と協議しながら進めました。天井の上で柱がどうなっているかの確認が重要でした。木材や石膏ボード、建具は材木店から仕入れました。





床にスタイロフォームという断熱材を入れたり、壁に断熱材を入れコンパネをはめる作業はDIYでもしやすい作業でした。壁板を貼る前にスイッチやコンセントの電気配線をするのは電気工事の有資格者に、台所とトイレと風呂の配管は水道屋さんに依頼。風呂の土台をつくるのが一苦労でした。





フローリング貼りとドア枠設置は大工さんの出番。台所の棚や流し台は安い新品を取り寄せました。 壁紙もDIYでやろうとしましたが時間がなくなり、内装屋さんに依頼しあっという間に完了しました。

経費を抑えて家の保全や改修を行う際のポイント ハード面

# 改修の前に 床下点検

畳の場合、畳を上げ、床板をバールで剥がす。無垢材なら洗浄して陰干しすれば再利用が可能なので、どの部屋の何番目か印をつける。床板が貼ってあった根太の釘を抜く。根太はできるだけを切らない。フローリングの場合、床下点検口から床下を見る。ない場合は工務店などに点検口を作ってもらう。



# 床下の乾燥 消毒

床下に空気が入るようにし、湿った土を乾かす。家の柱などについた泥を雑巾などで落とし、乾かしてから消毒。次亜塩素酸ナトリウムは酸性のものと混ざると猛毒な塩素ガスが発生する恐れがあります。水害後、床下に何が付着しているか分からないのでお勧めできません。10%の塩化ベンザルコニウム(逆性石けん)を雑巾などに浸して固く絞り、木の部分を拭き、手が届かないところは噴霧器で吹き付けます。消毒薬が目に入ったり吸い込むと危険なので、必ず手袋やマスクなどの保護具をつけ、換気しながら作業しましょう。

濡れた壁材 などの撤去

の場合は全部廃棄。濡れた断熱材(グラスウール)も廃棄。フローリングの裏についている場合もある。床 下や壁の内側にカビが増えると家にも健康にもよくないので、点検、乾燥、消毒は大切です。

壁紙の下にある石膏ボードは濡れた部分(水に浸かった30cmほど上まで)をカッターで切り取る。半分以上

#### 改修プランづくり

以上は震災がつなぐ全国ネットワーク作成「**水害後の家屋への適切な対応**」を参考にしました。詳しくは同ネットのWEBで→

改修予算と業者の選定

機、給湯設備、風呂などが浸水した場合、替える必要があるか点検も必要です。何を残すかも考えた方が良いでしょう。 改修工事の費用、電気設備に係る費用、井戸や浄化槽を止め上下水道につなぐ場合はその費用など、かかる経費と用意 できる金額を考え、工事の範囲を決めます。どの工務店に依頼するかが一番のポイントになります。

畳をフローリングに替えるか、部屋の間取りや通路の広さ、階段の傾斜や手すりなど、高齢者がいる場合は特に住む人が使いやすくなるように改修プランをつくります。2階建ての場合、できれば2階にトイレがあると災害時に安心です。そして工務店にどの工事でいくらかかるか、できれば数社から見積りをもらいます。低い場所のコンセント、エアコンの室外

#### DIYを取り入れる かどうか

改修に必要な資金が用意できるのであれば、工務店に一括して発注するのが最も確実です。それが難しい場合に、経費を削減して行うのが「DIY」(Do it yourself の略で、自分でつくったりすること)を取り入れた改修になります。DIYを取り入れた改修は経費(主に人件費)を節約できるメリットがありますが、工事の責任の所在が不明確になるなどの理由で工務店が応じてくれない場合もあります。 $8\sim10$ 頁の改修は、工務店に全て任せるのではなく、難しい作業(基礎や構造に関する工事、水まわり、電気配線など)はプロに依頼し、それ以外はボランティアや就労訓練を受けている人が教わりながら行いました。それができたのは、建築士や家の改修に詳しい人、DIY経験者の協力を得ることができたからです。

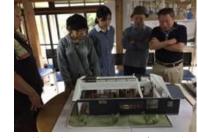
#### 経費を抑えて家の改修を行う際のポイント ソフト面

# どんな場にしたいか何度も話し夢を具体化することが大切

常総で私たちは、住んでいた方が不在になった戸建てや、大家さんが直せないアパートの改修に計5棟取り組んできました。空き家のままにしておくのが良くないと思ったことと、地域の人に役立つ場として再生することが復興に役立つと考えたからです。最初に改修したジュントスハウス(8頁)は集会所、学習支援施設、事務所など色々な用途で活用しています。Hアパートは、特色を持たせようと最初は障がいのある方も暮らせる住宅として設計しましたが、ひとり親家族が共同生活をする場として活用します。

さらに14-15頁で紹介するえんがわハウスは、病院だった場所がコミュニティカフェと情報センターになり、住宅二棟は保育や多世代交流の拠点として改修しました。このように、空き家を地域のどのような困りごとの解決に役立てるのか、誰に利用してもらうのか、を考える部分が最も重要です。

えんがわハウスの場合、「お茶する場がほしい」という声があり、外国ルーツの保育の場が必要で、高齢者が気軽に外出できる場も必要と考えました。このような場の活用の目的が見えてくると、様々な支援を得て改修をする道が開かれます。私たちのNPOはお金は持っていませんが、アイディアと災害時の活動を通じて得た人のつながりと「なんとしても場を再生する」という志だけはありました。自宅の改修の場合は自己資金と融資のみで行うのが通例ですが、福祉や教育などを目的にした社会的な事業だと、個人や団体からの寄付、国や県からの改修費補助も得ることができます。



皆の意見を聞く説明会も開催

目的が明確になったら資金確保

補助を得るには 法的要件をクリア することが大切 寄付の獲得・・・知人に知らせ、依頼し、活動参加の機会をつくる。DIYは支援者を増やす機会にもなりました。 融資の獲得・・・借入返済の収益が必要。保育や飲食を行う団体に場を貸して会社が家賃を得て返済する計画を作成。 補助の獲得・・・事業計画、改修図面や予算書に加えて建築関係の法律などに適合していることが求められました。

- ・その建物がいつできたか、借金の抵当権が設定されていないか法務局で確認(借金の抵当に入っていると補助金は困難)
- ・建てる際の行政による建築確認と、建てた後の検査を受けた証明書の有無を確認。検査済み証がないと、建設当時の建築基準を満たしているか改めて調査をする必要が生じ費用がかかるほか、基準を満たすための工事も求められます。
- ・住居から集会所などへ施設の用途を変更すると、現行の建築基準を満たす必要が生じて改修費がとても膨らみます。用 途変更をしなくてすむようにするには施設を区画し使用面積を一定以下にすることです。詳しくは建築士に相談を。
- ・建物の場所が市街化区域か調整区域かによってもできる工事がかわります。農家でないと新築できない区域もあります。
- ・飲食や福祉施設の場合には、防火、彩光、面積、衛生設備、避難口などの設備基準も満たす必要があります。

# コミュニティの拠点を作った事例 えんがわハウス (カフェ、保育棟、みんなの居場所)

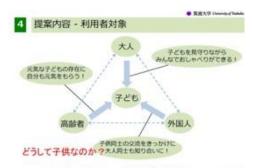
4日間、泥水に浸かり人口流出が多かった森下・橋本地区で診療所と住宅2棟が空き家となっていました。この場を生活支

援拠点として再生する取り組みに3年半取り組んできました。





集まって話せる場所が少なくて、 市民の交流する機会が少ない。



子どもを軸として交流を生む施設に! 30

高齢者のためにリフォームすることの意義

人生最後のときまで暮らすことのできる家を
(みんなが見ている、目が行き届く安心したまちづくり)

家を修復するだけではなく、尾場所が持てる場づくりを!!

思唱所づくりという視点からリフォームの有無を見ると…

のケース: リフォーム

みんなで空き家をリフォーム!!
まちの住民、皆で大家族♡

全員でまちをつくったという

自己責任で業者に払うのではなく、皆で修復していく

プロセスが重要!

筑波大と東京芸大の協力を得て測量し模型を作ったり、地域課題の整理、活用方針の検討を行いました。「最後まで地域で暮らせるように皆の居場所を作る」という方針が決まりました。下にあるチラシを地域に配布し、資金については右下のチラシを全国の知人に送付しました。











良いのだろうか?





改修前の母屋、住宅棟、診療所

←発災直後

50年前にできた旧片野医院は、水害前日まで週1回開いていました。9月10日から4日間泥水に浸かりました。一人で住んでおられたお医者さんは体調を崩されその後他界。3つの建物は空き家になっていました。水害から1年後、ご遺族と出会い、再生に向けた片付けが始まりました。



3棟合わせて「えんがわハウス」

この部屋はこんな空間になるのではと イメージし建築士に設計を頼みました













旧診療所はレントゲン装置や壁を撤去。屋根と床を張り替えました。手術室はキッチンになり、大きな窓から景色を見られるカフェに生まれ変わりました。

















母屋の1階は床を張り直し床暖房を入れ多世代交流拠点、2階は学習室と図書室。住宅棟はリビングと倉庫を改修して保育園にしました。

地域の復興への取り組み

人々の呟きに耳を傾け、人の協力と知恵で誰かの想いを形にすること

#### 生活する上での悩み

ジュントスの活動のきっかけ

コモンズというNPOは常総市で外国 ルーツの子の学習支援をしていました が9月10日に事務所が水没。代表の横田 の自宅も被災しました。被災した住民 としてNPOとして何ができるか考えま した。

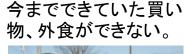
泥やものが片付いても、心の傷は残る。

それを癒すには仲間と思える存在、人 の関係が重要と思いました「助けても らう」だけでなく、「ともに助け合 うしへの想いが強まりました。

それで「一緒に」を意味するポルトガ ル語「juntos」を掲げたプロジェクト を1週間後に始める決意をし、県内外 の仲間に協力を呼びかけ始まりました。

水没4日目に事務所

に入った時の写真





通院、買い物を支える移動支援



「もらうのではなく選んで買う」陶器市「片付けで腰が痛い」の声に応えて



「お茶飲みしたいね」に応えて 病院をコミュニティカフェに

#### 仕事、趣味をやめた。 体が衰え車を手放した。



市民農園で野菜のプロに教わる





花植えの後は足湯でほっくり

#### 店が閉まり、お茶飲 み話ができなくなった。



駅前の花壇に皆で花植え



空き家改修した家でお食事会



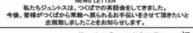
つくばの名所を皆で散策

#### 住んでいた家と違うところ に避難していて不便



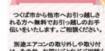
つくばに避難した方向けの茶話会











ださい。対応可能なことはさせてい ただきます

常総への帰還をお手伝い

#### 人々の呟きに耳を傾け、人の協力と知恵で誰かの想いをかたちにすること 地域の復興への取り組み

#### 心の悩み

# たすけあいセンター JUNTOS! ANTONIO DE L'ARRESTA DE L'ARRES ■外徵人支援 ■NPO連絡会議 ■保育





の取り組みをご紹介します と、前在集集・検討中の物が組みをとりまとれてご報かします





#### 老後の蓄えを改修費に 支出し、この先が不安



税理士による雑損控除の説明会



弁護士による支援制度の説明会



復興計画に市民の声を届けるた めのワークショップ

#### 生き甲斐にしていたも のがなくなり寂しい



仮改修をした「えんがわハウス」で行った落語会、餅つき

町内復興ミニコンサート開催について

平成27年9月に発生した関東・東北豪雨から3か月がたとうとしています。 町内の皆様におきましても、床下・床上浸水等の甚大な被害を受け、 未だに自宅に戻れずに避難生活を余儀なくされている方々も 多くおられます。

今般、町内会では少しでもいやしの場になればと、下記のとおり 復興ミニコンサートを企画いたしました。

当日は、「すいとん」「パンプキンスープ」の炊き出しのほか 豊岡町在中のオペラ歌手、小林さとみさんのご厚意により、この時期に ふさわしい歌のプレゼントがございます。 お誘いあわせのうえ、皆様方のご来場を心よりお待ち申し上げます。

日時 12月13日(日曜日) 場所 保健センター2階(森下町)

> 午前11時30分より すいとんとパンプキンス一プ の炊き出しがあります(100食)(無料)

小林さとみさんのコンサート(豊岡在住)

小林さんの歌声を聴いて"ホッ"と一息ついて 笑顔がみれたらうれしいです。





主催:森下町内会 問い合わせ先:090-9347(西堀まで)

町内会が企画したミニコンサート

#### 友人が転居したり、人と話 す機会が減り寂しい





辛さが理解されない、忘れら



子どもたちのストレス発散のための 冒険あそびばを学校で実施



クリスマス会



保育園児が家庭に突撃 「お菓子頂戴」





寄付で購入した毛布は 寒い冬に喜ばれました

地区による被災の差は、心の温度差を生 みます。「もう片付いた?」と言われ「私の 苦しみわかるの」と思う人が多くいました。 各地の状況や被災した人の想いを互いに 理解できるように電気毛布を配りながら、 自らの被災や避難の体験を手紙で寄せて いただきました。約100世帯の声を紹介す る本を作り市内外の人に配りました。

#### 次の災害への不安を減らすためにできること

鬼怒川に近い橋本町や森下町の人は大雨の度に不安を感じます。それも人口流出の要因 です。そこで森下町では半年後にアンケートを実施。多くの住民が前回入れなかった近く の学校に一時避難したいことがわかりました。その学校の避難受け入れ体制作りを地域主 体で行うことにしました。となりの橋本町とも合同で自主防災に取り組んでいます。

#### 発災から半年後に森下町内会とNPOでアンケートを実施

森下町の防災に	関する住	民アンケート (回答235世帯)	
昨年9月の避難行動		次に災害の危険が起きたら	
水が来る前に避難した	85	避難	127
避難しなかった	147	家にとどまる	22
		近くに一時退避	67
昨年の水害時の避難先		次に災害がせまった場合の避難	先
海小・一高	3	海小・一高	15
市役所	7	市役所	
知人	18	知人	25
つくば	15	つくば	9
守谷	7	守谷	5
その他市外	15	その他市外	8
その他	9	その他	7
避難しなかった理由		一時退避したい近くの建物	
水は来ないと思い込み	150	保健センター	82
避難先がわからず	50	海中	45
避難所が遠い	12	二高	55
車がなく動けず	14	その他	22
「川西へ」では動けず	19		
2階で大丈夫かと思い	70	近所に声かけを頼みたいですか	
ベットがいるので	29	はい	146
その他	24	いいえ	37
自宅に留まった結果は		今後に備え地区ですべきこと	
ヘリで救助	20	避難場所とマップづくり	79
ボートで救助	56	避難訓練	30
家に留まった	43	メールの登録と配信	29
		日頃からの住民の情報共有	16
地区の避難指示はわかっ7	<b>≒</b> ?		
はい	65		
いいえ	161		
避難指示を知ったのは			
防災無線	28		
広報車	9		
市のウェブなど	7		
高齢者のみ世帯	48	犬猫同居世帯	48
		A SHALL WHAT HAN THE	.0

高齢単身世帯





アンケートに続き、町内会とNPOで会合を企画。 住宅地図にどこが空き家、更地になったか書き込 み町の現状を共有しました。次にどんな町にして いきたいかグループで話し会いました。そこから お茶会や花壇整備の新たな活動も生まれました。

#### 前回水害の教訓

- ・逃げ遅れてヘリでバラバラ救助されないように
- ・二度と公園をゴミの山にしない
- ・在宅避難者にも支援が届くようにする

#### 自主防災で取り組むこと

- ・誰もが行ける避難所を自分たちで開設運営
- ・一時退避場所へ避難するための地図と訓練
- ・ 地区の連絡手段の確保
- ・災害ゴミ置き場の確保

#### もり・はしプロジェクト(森下町と橋本町の地域再生)の取り組み 安心して暮らせる街にするための自主防災を進めています

堤防の強化は進められていますが、水害の可能性はあります。前回の水害の教訓を 牛かすには、具体的な防災の取り組みを住民が主体になって進めることが大切です。 私たちは森下・橋本の自治会の皆さんや学校と次のような活動に取り組んでいます。

#### 避難所の整備

前回、避難所に指定されていた学校で避難所が 開設されなかったことが、逃げ遅れの要因の一つ となりました。避難所が整備されないと訓練もでき ません。そこで、水海道中学校、水海道二高、常総 市危機管理担当課と避難所整備に関する話し合い を行い、まず水海道中学校で災害時に使う機材の 設置と、地震と水害に備えた避難所運営マニュアル 作りを進める形になってきました。

避難所は市が発電機や毛布などの資機材を配備 しますが、実際の避難所運営は行政、学校、住民が 協力して行うものです。資機材を配置し、運営マニュ アルを作り、訓練をすることで、足腰の悪い方も乳幼 児やペットがいる世帯も安心して避難できます。

2月10日午前に水海道中学校で避難所開設訓練と 避難訓練を行います。どなたでもご参加下さい。

#### 防災・避難マップづくり

森下・橋本では住民が街を歩きながら次の情報を 調べ地図を作る活動も行っています。

(水害時に深い場所、塀などが倒れそうな道路、 消火栓、公衆電話、AEDの場所、歩道の溝など)

水害時に一時避難ができる建物も記載した避難 マップを作り、いざという時に誰とどこへ避難するか 家族や近所で考え備えるための活動です。

2月3日にマップづくり活動をします。ご参加下さい

#### 地区のショートメールでの連絡網の導入

災害時は、防災無線だけでは伝わりません。前回の水害で、根新田自治会では携帯 電話にショートメールを流す連絡網があったことで各世帯がどこにいるかがわかり、 地区の被災状況を避難している住民に伝えたり、避難誘導、物資配給などでも力を 発揮しました。

こうしたショートメール連絡網はスマートフォンを持っていない高齢者も簡単に 登録できます。地区の資源回収や行事連絡にも活用できます。災害時に連絡体制が あれば前回の水害では届かなかった情報、食料、支援物資が在宅の避難者にも届け やすくなります。

このように具体的に災害に備える活動を進めるために、森下・橋本の合同で自主防 災組織を作る取り組みが進められています。コモンズもそれぞれの活動に協力させ ていただいています。

(JUNTOS通信より)





# 次の災害への備え、安心できるコミュニティなくして人口流出は止められない 自主防災の8つの活動テーマ

# 避難所の整備

最低限の資機材の配備、車椅子でも来られるスロープ、電源、トイレ、避難所の運営マニュアル係、配置を決めておく

#### 避難地図をつくる

どこを通って、誰と、どこへ逃げるか、 どこが危険が、どこに高い建物があるか、 公衆電話、AEDの場所など地図にする

# **\**

# 避難訓練と避難所運営訓練をする

避難所開設訓練、住民、特に要配慮者が 生き方と場所を見ておくことが大切 近所で声をかけあい、関係性を作っておく 避難所でどんな役割があるか体験しておく こともいざという時に役立つ



# タイムラインを作る

災害発生のリスクが高また時に、 どの段階で何をするか、いつ、 どこに避難するか決めておく



# 地区防災計画を作る

個別支援計画をつくる

自力避難が難しい要配慮者

を災害時にどう支援するか

地区の訓練を通じて検討

避難所の開設運営、避難 訓練、情報伝達、物資配 給などの計画づくり



# 行政任せではなく、自治会、学校、ボランティア団体で組織をつくり 日頃から顔の見える関係をつくり シミュレーションや訓練を重ねて

いく

# 情報伝達の仕組み

携帯の電話番号を登録しショートメールで連絡。今、何世帯いるかわかること、支援物資が来たことを伝える手段があれば、在宅に支援が届く



#### 避難所の整備

常総市では、多くの学校 や公共施設が平地にあり、 洪水時に浸水する可能性 当まれます。2階以上は 当まれます。 2階以上は がマッ学 は 当に とれていますが、マニ またの 避難所開設す で きてい も 未実施で した。

そこで町内会とNPOが まず中学校に呼びかけ、 マニュアルづくりを進める ことにしました。

最初に避難所運営を疑似体験出来る避難所運営が一ム(HUG)を教員と生徒会役員向けに実施しました。その次に市の一斉防災訓練の日の活動として全生徒が90分程度HUGを行いました。

# 避難先となる中学校での防災学習



#### 避難所の整備

HUGを行った際には、 右の9項目について気 づいたことを班ごとに 話してもらいます。 それを集約したのが右 の表です。

避難所には多様な人が 来ること、受け入れをし やすくするには、どの 所に入ってもらうか、 を事前に置いておさん 良いかなど、たくさべ アイディアと検討す。 課題が出されました。

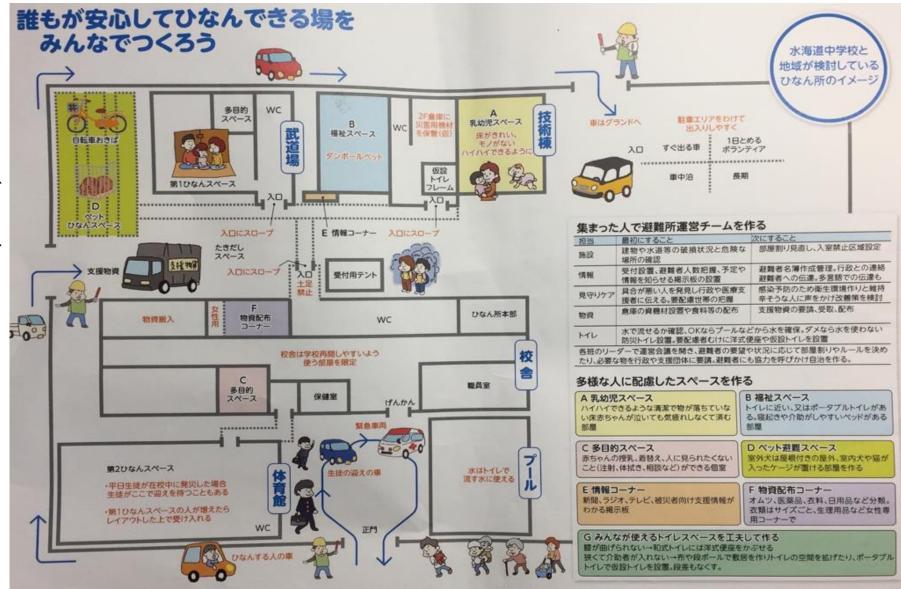
#### 避難所運営ゲーム (HUG)振り返りシート

	振り返りの項目	生徒が記入した内容
1	避難者で特に配慮が必要なのはど	要配慮者(障がい者、認知症、寝たきりなど)→福祉避難所へ
1	んな世帯	高齢者、病気の人、乳幼児、妊婦、日本語がわからない人、ペット連れ
	体育館の空間配置のポイント	通路の確保、場所の刑事、部屋の区分け(自治性を高め、協力体制を作る)、情報発信の場所は集約する
2	(区分け、動線)	受付は分かりやすい場所に(入り口付近)、酸素ボンベを使用する高齢者は入り口付近に、物資はステージの
		見えやすい所に、人は中に寄ってもらい壁際を開ける、ペットの居場所の確保
	教室活用の留意点	優先順位を決める(高齢者、病気の人など)プライバシーの確保、机や椅子の撤去、トイレとの距離、スロー
3		プ、車の乗り入れ
	平時に備えておいた方がいいもの	飲み水、それ以外の水(雨水、プールの水の貯水)→ 給水用具(バケツ、ポンプなど)、食べ物(保存食)
4		対応マニュアル、防寒対策できるもの(毛布、石油ストーブなど)、常備薬、消毒薬、発電機器、照明、燃
		料、赤ちゃんグッズ、タオル、段ボールベット、トイレロール、生理用品、充電器
۱,	避難所運営で生かせそうな物や人	机→パーテーション 段ボール、消毒薬、毛布、避難所でのルール、掲示物や案内(多言語)、ボランティ
5		ア、医者、看護師、介護士、通訳(語学が出来る人)、若者、機動力、元気な人、リーダーを決める
	避難所の受付マニュアルに記載し	初期対応マニュアル(シンプルなもの)避難者を区別するための条件の明確化、掲示板(住む地区と名前)、
6	たいこと	受付で名前、年齢、地区、連絡先、職業、家族構成(同伴者)、健康状態などを把握。地区ごとの名簿、支援
		物資の仕分け方法、個人情報管理ルール、避難所のルール、ボランティアの役割と募集、退去時の届け出
7	判断・対処に悩みそうな事柄	生活、人間関係、食料・物資などの配布における公平性、優先順位、生活モラル(就寝起床時間)、部屋の割
'		り振り、マスコミへの対応、具合がわるくなる人の病状の把握、ペッドの居場所
	自分と家族が避難所に避難すると	食事、場所の確保(寝る場所)、トイレ、給排水状況、家の情報(防犯など)、赤ちゃんや高齢者の居場所、
8	  したら何が不安か	避難経路、女性の着替え場所、プライバシー確保、衛生面、騒音、充電できるか
		比スカナーで写ヴマセストン・フェノナがス・ラー・フェのと西峡(巫仕は、反ハは、私始れば)
		皆で協力して運営できるようシステムを作る→マニュアルの必要性(受付時、区分け、動線など)
9		避難の基礎力を明確化、経験者がリーダーとなる→精神的支柱、避難所開設マニュアル、危機意識を高める、
	いこと	いざという時に助け合える関係性を築く→周囲や地域との連携、避難所の運営は簡単ではない→運営者の気持しまれます。  は、おおうえ、誰と、然にどえに行くかけれておく、冷難場形がどのとうな場別になっていくか理解する。
		ちを考える、誰と一緒にどこに行くか決めておく、避難場所がどのような状況になっていくか理解する

#### 避難所の整備

- ・中学校の避難場所の配置と運営にあたる各班の役割1枚にまとめました。
- これを地区住民に配り、 避難訓練につなげま した。
- ・避難所開設の手順書は、 地震、風水害、生徒 在校、休日と4パ ターンで作成しまし た。





この避難所マニュアルは常総市の防災ガイドに掲載され全戸配布されました

#### 避難訓練と避難所運営訓練

HUGでの気づきをも とに作成した避難 所マニュアルに 沿った避難所開設 訓練も毎年2回程 度実施。

中学校では1学年120名が避難者 役と運営側に分かれ体験します。 地域に呼びかけて行う際は避難地 図を見ながら避難グッズを背負っ













トイレ設置、発電機操作などもを学びます。ペットの避難も試し 高齢者、障がい者、妊婦役を受け付け誘導。





NPOは、受付、発電、調理、衛生など各班が使う用具 のセットとダンボールベット、災害用トイレなどを車 2台ですぐに持ち込めるように準備しています。









外国籍住民にも訓練に参加して もらえるようブラジル料理の炊 き出しも行っています。











#### 住民への情報伝達の仕組み作り

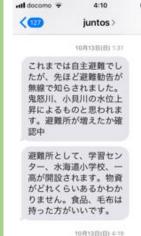
避難所の受け入れ態勢づくりに続いて取り組んでいるのが、住民への災害時情報伝達の仕組み作りです。前回の水害時防災無線は聞き取りにくく、避難先情報も不十分で逃げ遅れの要因にもなりました。

別の地区はショートメールの連絡網を導入していていたお陰で、住民の避難状況や在宅被災者の数を把握できていたの弁当を配布できました。それを参考に森下橋本でも同様のメーラに表す。スマホがないを高います。スマホがな配信できます。

1回70文字までという字数制限があり 通信費用もかかりますが、重要な通信 手段です。登録世帯を増やすことが 課題です。

昨年の台風では 近くの水路も写 真のように増水 し避難指示も出 され、緊迫した 状況でした。





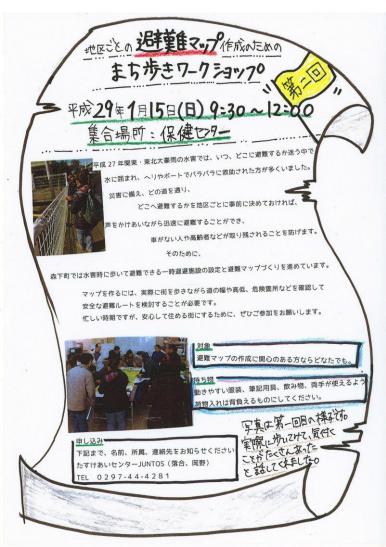
NHKニュース防災という マブリた 1 to 豊裕士の



#### 避難地図をつくる

避難所マニュアルづくりは、避難所となる 学校などの協力がないとすぐにできませんが、 避難地図は比較的容易につくることができます。 避難地図作成のきっかけは、2014年に大規模な 土砂災害で被災された広島の自治会の方からの 助言でした。広島の自治会は大規模な土砂災害 の後、命を守るために3階建て以上の建物を 退避施設として設定し、どの道がより安全か わかるような地図をつくり、実際に訓練をして いるとのことでした。

地図づくりでは「技術士会」のアドバイスを





グループで危険箇所を確認 「個人宅の塀などを指差して危ない と大きな声で言わないように」、 とアドバイスを受けました。



気づいたことを地図に記入していく

#### 避難地図をつくる

# 2015 年の浸水状況と避難する際の危険箇所

国ブ色も浸よたるにまア可い避地出サ分あ水う。か何しは能場が で理トさ、深調こわも。以がへ要 一院にれ水さ整がか作紫上あので は工でののうしなうしリ水高の は工でののうしなうしリ水高の



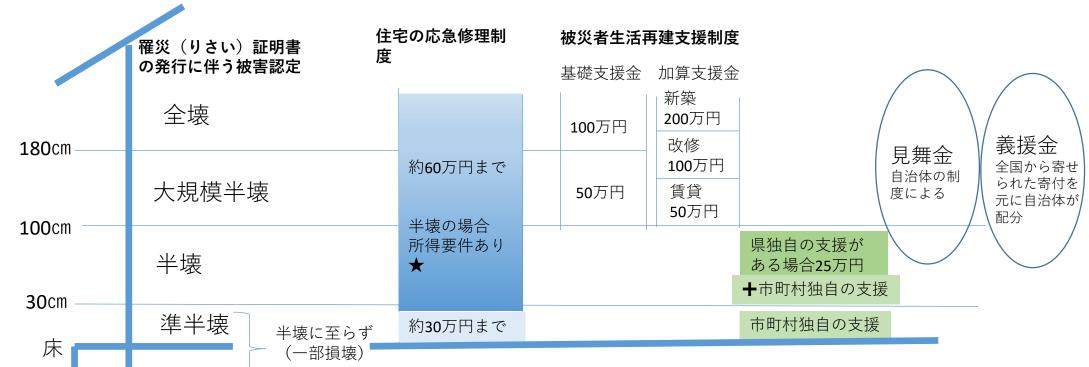
#### 避難地図をつくる

前回の水害で2メートル近く浸水したところもあった橋本町では、4階以上のアパートも記しました。

真ん中を東西に流れる新八軒堀川の水位が 上昇すると前回のよう に水が雨水溝から逆流 する内水氾濫が起こる 可能性があります。



災害弔慰金・・被災し死亡した場合(関連死含む) 災害障害見舞金・・重い障害をおった場合



水害の場合の被害認定で一般的なのが、 床上何センチ水に浸かったかです。近年 準半壊が加わりました。

家のどの部分が何割被害を受けたかで 判定する場合もあります。2階建てと平屋 では平家の方が被害割合が高くなります。 家が傾くなどした場合も全壊になりえます。 用を行政が工事業者に払う制度 ★以前は半壊は世帯収入500万 までという要件がありました。 今は改修のための資金的余裕が ないことを書面で提出します。 持家の世帯が対象

生活に最低限必要な家の修理費

この制度を利用した場合、仮設 住宅に入れない場合がある 生活再建支援金は大規模半壊以上の世帯にお金が支給されます。 基礎支援金は被害認定で決まり、加算分は新築、改修、賃貸のどれで再建するかによります。 単身世帯は4分の3の額になる。 床上1m未満でも、住めない状態で解体すれば全壊扱いで支援が受けられる場合もある。 この他にも解体費用を 行政が負担する公り 体制度、お金を借りられる制度、被災ロー宅 が入り、仮設住宅を提供する 度、税金や保険料の減 免制度などがあります。 制度で救われない場合、常総の住民はどう制度を変える要望をしてきたか

#### 1被害認定に関し て

多くの支援制度が被害認定に基づいて支援額や支援の有無が決まります。

床上60cmでも、実際には1m以上の場合と同じくらい改修が必要になることもあります。

多くの常総の被災者は半壊ゆえに支援から漏れてしまいました。

#### 2 住宅の応急修理 制度に関して

半壊が3千世帯を越え多かった常総の場合、一世帯500万円の所得制限のために制度を利用できない方が多くいました。要望により、制度を利用できなかった世帯に対して県市が半額づつ負担して56万7千円(当時の額相当)が補助されました。

#### 3 被災者生活再建 支援制度に関し て

大規模半壊以上を対象にしているため半壊世帯が支援が受けられませんでしたが、強い要望により県市の支援が決まり25万円が支給されました。(茨城県ではその後、半壊対象に制度化)

#### 4 建築廃材の災害 廃棄物扱いに関 して

業者によらず床壁を剥がし石膏ボードや断熱材が出た場合、市は産廃として業者に引き取ってもらうよう説明しました。しかし被災者の負担が大きく、要望により費用の一部補助が実現。

2、3にあるように半壊とされ、支援から漏れた被災者を県などが独自に支援することになったのは、被災自治体の議会で「半壊も大規模も同程度の被害なので差をつけないよう」決議がなされたことも影響しました。

常総市の場合、市の中心部も含む広いエリアで甚大な被害が出て、各地区の区長などが連携して国、県、市に要望活動を続けてきました。諦めずに声をあげ交渉する姿勢が制度を変えることにつながります。

#### 被災された皆様へ

被災したのに罹災証明書発行の申請をしていない場合は必ず申請しましょう。

被害認定結果に納得できない場合、再調査を 依頼し2次判定を受けることも可能です。た だし2次判定で大規模が半壊になる場合もあり ます。

台風19号に関する応急修理や公費解体については既に申請の受付が終了している自治体が多いようですが、被災者生活再建支援制度について、特に加算支援金については大規模半壊以上であれば申請できます。新築か改修か賃貸にするか検討する際にも加算支援金について検討し制度を活用しましょう。

自治体によって様々な支援制度があってもその周 知の仕方が異なります。使える制度があったのに 使わなかったということにならないよう周りに知 らせることも大切な活動です。

介護保険・国民健康保険・後期高齢者医療保険など医療に関する制度について、被災者の保険料や窓口負担の軽減措置がいつまで続くはとても重要なことです。自治体によって差が生じやすいので地元の自治体に確認し必要な期限延長を働きかけることも大切です。

今年のコロナの影響で事業継続が困難になった団体が様々な要望をしているように、困ったときは誰かに話し協力して声を上げいきましょう。

#### 水害から5年目を迎える常総の人たちは今

#### 4年半前、住まいをどうしようと考え、選択しましたか?

とにかく住めるよう無我夢中でした。元に戻しながら平凡にくらしていければと思います。

1階リフォームする上でどのくらいの費用がかかるか? 支払うことができるか?家の中のものを家族でどう搬出できるか

他に移転するという選択は全然なかったです。内部の改修のみ

「移転する」という選択肢はありませんでしたがその選択が正かったのかどうかは今でもわかりません。

常総市から出ていきたかった。 今もあまり魅力がない

引っ越しをしました。住めないと言われ子供の転校をしなくて済むよう、なるべく同じ地区で近いアパートを探した。

老後のための少しの貯えも全部使い、市の支援は涙が出るほど ありがたかったけれど、ここに居るためには、改修をするしかな く

何とか改修した家に住んでいます。

今までの生活が戻るのか? どのくらいのお金がかかるのかで悩みました。保険に加入しており助かりました。

改修し以前よりも良くなるようにした。すべては、セルフイメージ!!

和室をフローリングにしました。

資金のこと、又この先、同じような災害が起きるかもと改修を選択。 行政に頼りすぎると強くなれないと思った

#### 生活面でどのような変化がありましたか?

健康で元気にいられるように気持ちを強く持って生きてきました。

水害前の生活に戻れるまで**2**年はかかったと思う。 現在は、以前の生活と同等の生活に戻っている。

地域で思いがけない友人ができました。

いろんな所で減災に対しての話をすることができました。 人とのつながりは、より強くなったと思います。

水害後、喘息がひどくなり、毎日吸入しています。 膝が悪くなり防災はあまり考えられません。

災害に対して敏感になりました。

あまり変わらない。自分の身は自分で守るという事しか言えない。

友達みんな同じ思いをしてきたので、互いに思いやりでつながっていると思います。

暮らしの面で常に整理・整頓に努力している。防災訓練、その他、 関係する集まりには、必ず参加している。

暮らしや人付き合い、防災面や健康面を考えるきっかけになった。

勤めていた精米業が廃業してしまったが被災者支援の相談員に就いた。 水害後に近所関係がギクシャクしたという話が数件ありました。 共助が年々薄れてきているのではないかと感じました。

# どのような思いで4年半の間 暮らしましたかどうなったら被災者でなくなると思いますか?

天災には逆らえないのでその時、その時、気持ちを切り替えたいと 思います。

洪水の恐ろしさを体験し、二度と過ちを繰り返さないよう日々防災について住民一体になりたい。共助は大切。継続に意義がある。

**2**年間ぐらいは、家のリフォーム等で大変でしたが、その後は、ほぼ今まで通りの生活に戻りました。

いつまでも被災者のままではいけないと思います。この地のほかに 被災している人々が本当にたくさんいるのですから

私たちよりもっともっと大変な思いをしている人が大勢いるので甘えていられない。

また災害が起こったらどうしよう? 常総市から離れるのか? などを考えていました。近所との付き合いを大切にしていきたいです。

一応区切りをつけて、老後の1日1日を健康でいることを願っています。

二度と同じ災害にあわないことを願って生活してきたが、台風等で 被災者になる可能性はなくならないと思っている。

今のことしか考えない! そして未来! すべて通過点である。

最近の各地での災害を見るにつけ、家という形が残っただけでも

「被災者でなくなる」とは大変難しい質問と思う。

#### 昨年の台風で被災された方へのメッセージ

誰も大変です。お互いに頑張りましょう

仮設住宅の生活は、大変なご苦労があると思いますが、ぜひ、 前向きの姿勢でご努力してください。

私も行政の補助金などを活用させてもらいどうにか元の生活に戻りましたがまだ心の痛みはあります。ただ過去を振り返っても進歩がないので前を向いて一歩一歩進むことが大切。

まだ大変な思いをしている人がいるのは心が痛みます。

生きてさえいればこれから良いことがたくさん待っています。 どうか挫けずに、腐らずに前を向いてほしいです。 子どもの未来のためにも…。

時間がかかるかもしれないけど元気で頑張ってください。

今は、苦しいかもしれませんが頑張っていきましょう。人との コミュニケーションを大切にしましょう

気の毒で何も言えません。どうにもならないんでしょうね。 年を重ねるともう自分では何もできない。

健康に十分気を付けてください。希望をもって諦めないで下さい。

過去より抜け出してください。それには、セルフイメージ! クリエイティブに! 思考で変化する!

資金の面で困っていると思いますがそれはみんな同じ。自分の 生活の度合いを考えてすれば良いのではないのでしょうか 昨年の台風で被災された地域では、復旧から復興の段階に入ろうとした時に冬を迎え、さらに新型コロナの影響で人と接する活動が しにくい状況になり、人々の関心もコロナに向けられています。常総の時も被災から半年後に熊本地震が起き、常総水害は過去のこ とになりました。けれどまだ災害は続いていると思います。この冊子で紹介した常総の状況や取り組みについて関心がある方、家や 生活の再建をどうすればいいか、どう支援制度を申請すればいいか、心が落ちつかないので誰かと話したい、など、どのようなことで

も結構です。よろしければ下記まで、ご連絡、ご相談ください。私たちは、自治体や社会福祉協議会との連携はもちろん、制度に詳しい弁護士・司法書士や、大学、フードバンク、生協など多様な仲間とネットワークをつくり、被災した地域の皆さんに寄り添ってまいります。

昨年秋から冬にかけて大子町や常陸大宮市で開催した**支援制度や家の点検改修に関する** 出前説明会などは感染予防をしながら今後も継続していければと思います。この冊子の内容 についてもご連絡をいただけましたら説明に参ります。

今年も台風や大雨の季節がやってきます。生活の再建や地域の復興に向け忙しいと思いますが、被災の教訓を生かすためにも、自主防災は今から取り組んでいただきたいと思います。常総の経験を少しでも生かせるように、今後もみなさんのところに伺いたいと思っております。時間がかかるかもしれませんが、共に復興を目指しましょう。

ジュントスの取組みは下記サイトでもご覧いただけます



# たすけあいセンター「JUNTOS」

(運営:認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンス) 〒303-0003 常総市水海道橋本町3571 えんがわハウス内(北水海道駅より徒歩8分)

ウェブ: www.juntos-joso.org

eメール juntos@npocommons.org

電話: 0297-44-4281 FAX: 0297-44-4291



被災した区長さん宅で行った 住宅の点検・消毒の説明会



大子町で行った足湯サロンと 炊き出し



本冊子は特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォームのご支援 により作成しました。